



2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

## 政府レポートから読み解く

# 持続可能な社会の実現“SDGs”について

前田マネジメント代表 前田 紳詞

## 持続可能な開発目標（SDGs）

- 2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。**「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会**の実現のため、2030年を年限とする**17の国際目標**。（その下に、169のターゲット、232の指標が決められている。）



**普遍性** 先進国を含め、**全ての国が行動**

**包摂性** 人間の安全保障の理念を反映し  
**「誰一人取り残さない」**

**参画型** **全てのステークホルダーが役割を**

**統合性** 社会・経済・環境に**統合的に取り組む**

**透明性** **定期的にフォローアップ**

### 前身：ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals: MDGs）

- 2001年に国連で専門家間の議論を経て策定。2000年に採択された「国連ミレニアム宣言」と、1990年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したもの。
- 発展途上国向けの開発目標として、**2015年を期限とする8つの目標を設定**。  
(①貧困・飢餓、②初等教育、③女性、④乳幼児、⑤妊産婦、⑥疾病、⑦環境、⑧連帯)

- ✓ MDGsは一定の成果を達成。一方で、未達成の課題も残された。
  - 極度の貧困半減（目標①）やHIV・マラリア対策（同⑥）等を達成。
  - × 乳幼児や妊産婦の死亡率削減（同④、⑤）は未達成。サブサハラアフリカ等で達成に遅れ。

**環境**  
(リオ+20)

**人権**

**平和**



## 『SDGsアクションプラン2020』のポイント

- 日本は、豊かで活力のある「**誰一人取り残さない**」社会を実現するため、一人ひとりの保護と能力強化に焦点を当てた「**人間の安全保障**」の理念に基づき、世界の「**国づくり**」と「**人づくり**」に貢献。SDGsの力強い担い手たる日本の姿を国際社会に示す。
- 『SDGsアクションプラン2020』では、**改定されたSDGs実施指針の下、今後の10年を2030年の目標達成に向けた「行動の10年」とすべく、2020年に実施する政府の具体的な取組を盛り込んだ。**
- 国内実施・国際協力の両面において、次の3本柱を中核とする「日本のSDGsモデル」の展開を**加速化していく。**

令和2年度当初予算政府案及び令和元年度補正予算政府案の総額は1.7兆円

I. ビジネスとイノベーション ～SDGsと連動する「Society5.0」の推進～	II. SDGsを原動力とした地方創生， 強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり	III. SDGsの担い手としての 次世代・女性のエンパワーメント
<p><b>ビジネス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 企業経営へのSDGsの取り込み及びESG投資を後押し。</li> <li>▶ 「Connected Industries」の推進。</li> <li>▶ 中小企業のSDGs取組強化のための関係団体・地域、金融機関との連携を強化。</li> </ul> <p><b>科学技術イノベーション（STI）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ STI for SDGsロードマップ策定と、各国のロードマップ策定支援。</li> <li>▶ STI for SDGsプラットフォームの構築。</li> <li>▶ 研究開発成果の<b>社会実装化促進</b>。</li> <li>▶ <b>バイオ戦略</b>の推進による持続可能な循環型社会の実現（バイオエコノミー）。</li> <li>▶ <b>スマート農林水産業の推進</b>。</li> <li>▶ 「Society5.0」を支えるICT分野の研究開発、AI、ビッグデータの活用。</li> </ul>	<p><b>地方創生の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ SDGs未来都市、地方創生SDGs官民連携プラットフォームを通じた民間参画の促進、地方創生SDGs国際フォーラムを通じた普及展開。</li> <li>▶ 「地方創生SDGs金融」を通じた「自律的好循環」の形成に向け、SDGsに取り組む地域事業者等の登録・認証制度等を推進。</li> </ul> <p><b>強靱なまちづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 防災・減災、国土強靱化の推進、エネルギーインフラ強化やグリーンインフラの推進。</li> <li>▶ 質の高いインフラの推進。</li> </ul> <p><b>循環共生型社会の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 東京オリンピック・パラリンピックに向けた持続可能性の配慮</li> <li>▶ 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実現に向けた海洋プラスチックごみ対策の推進。</li> <li>▶ 地域循環共生圏づくりの促進。</li> <li>▶ 「パリ協定長期成長戦略」に基づく施策の実施。</li> </ul>	<p><b>次世代・女性のエンパワーメント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 働き方改革の着実な実施。</li> <li>▶ あらゆる分野における<b>女性の活躍推進</b></li> <li>▶ <b>ダイバーシティ・バリアフリー</b>の推進</li> <li>▶ 「次世代のSDGs推進プラットフォーム」の内外での活動を支援。</li> </ul> <p><b>「人づくり」の中核としての保健、教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 東京オリンピック・パラリンピックを通じた<b>スポーツSDGs</b>の推進。</li> <li>▶ <b>新学習指導要領を踏まえた持続可能な開発のための教育(ESD)</b>の推進。</li> <li>▶ <b>ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)</b>推進</li> <li>▶ <b>東京栄養サミット2020</b>の開催、<b>食育</b>の推進。</li> </ul>

国際社会  
への展開

2020年に開催される、**京都コンgres(4月)**、**2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会(7月～9月)**、**アジア・太平洋水サミット(10月)**、**東京栄養サミット2020(時期調整中)**等の機会も活用し、**国際社会に日本のSDGsの取組を共有・展開**していく。



## G20大阪サミット（SDGs主要分野）の成果



- 大阪首脳宣言において、自由貿易の推進やイノベーションを通じた世界の経済成長の牽引と格差への対処、環境・地球規模課題への貢献等、SDGs主要課題についてG20首脳のコミットメントを再確認。
- G20議長国として、質の高いインフラ、防災、海洋プラスチックごみ、気候変動、女性、保健、教育の7分野において、リーダーシップを発揮。



### SDGsの推進

- 大阪首脳宣言
- 持続可能な開発のための2030アジェンダに関するG20行動計画に基づく大阪アップデート
- STI for SDGs ロードマップ策定の基本的考え方
- G20開発コミットメントに関する大阪包括的説明責任報告書

### 質の高いインフラ

- 質の高いインフラ投資に関するG20原則  
→ 戦略的方向性として6つの原則を提示
- インフラ開発における腐敗対策に関するG20グッドプラクティス集

### 防災

- 開発作業部会サイドイベント: 防災アジェンダの達成に向けた展望  
→ 防災の主流化、事前防災投資の重要性を確認

### 海洋プラスチックごみ

- 大阪ブルー・オーシャン・ビジョン  
→ 2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染ゼロを目指す
- G20海洋プラスチックごみ対策実施枠組  
→ G20による海洋プラスチックごみに対する具体的な行動を促進

### 気候変動

- G20として環境と成長の好循環に立脚した行動志向の共通理解  
→ 非国家主体も含めたあらゆるレベルでの取組について推進

### 女性

- 女性のエンパワーメントに関する首脳特別イベント  
→ 女性の労働参画、女子教育、女性起業家支援の重要性を確認
- 女性労働参画進捗報告書

### 保健

- 途上国におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジファイナンス強化の重要性に関するG20共通理解  
→ UHC推進に向けたグローバルな取組を加速

### 教育

- G20持続可能な開発のための人的資本投資イニシアティブ  
→ 包括的で強靱かつ革新的な社会を創造するための質の高い教育の実現に向けた取組強化

G20 外務大臣会合  
(2019年11月)

- SDGsについての議論：地方におけるSDGsの推進、資金動員、インフラ強化、連結性、教育・人的資本投資、ジェンダー・女性のエンパワーメント等の分野について議論が行われ、行動を加速すべきとの認識で一致
- 高校生の提言：地元高校生から、「質の高い教育」に関する提言書を茂木大臣に手交





## SDGサミット2019

9月24-25日、国連において「SDGサミット2019」が開催され、日本からは安倍総理が出席。同サミットは、首脳レベルでSDGs採択以降過去4年間の取組のレビューを行い、SDGs達成のモメンタムを高めるために開催。グテーレス事務総長、ムハンマド＝バンデ総会議長、各国首脳、国際機関の長が出席し、「SDGサミット政治宣言」を採択した。

### 安倍総理によるステートメント概要

- 人間の安全保障の理念に基づき、「誰一人取り残さない社会」を実現するため、G20大阪サミット等において、環境、教育、保健、質の高いインフラ投資等の取組を主導。
- 過去4年間で、「SDGs推進本部」本部長として、「ジャパンSDGsアワード」や「SDGs未来都市」等、オールジャパンでSDGsを推進。次のSDGサミットまでに取組を更に加速させる。
- 今後の取組の鍵は、民間企業、地方創生、強靱かつ環境にやさしいまちづくり。
- 本年12月までに「SDGs実施指針」を改定し、進化した日本の「SDGsモデル」を示す。



### 国連側出席者の主な発言

#### グテーレス国連事務総長

政府、民間、ビジネス、金融、市民社会、若者が行動を起こし、取組は進展したが、あるべき姿からは程遠く、いま取組を拡大しなければならない。2030年までをSDGs達成に向けた「行動の10年」とするため、(1)グローバルな取組、(2)ローカルな取組、(3)人々の行動(市民社会、メディア、アカデミア、若者等)が重要。今後、「行動の10年」を進めるためのプラットフォームを毎年開催。2020年9月に第1回会合を開催。

#### ムハンマド＝バンデ国連総会議長

SDGs達成に向けた多大な努力を賞賛する一方、達成状況に偏りや遅れがあり、取組の加速化が必要。資金を確保し、貧困撲滅や教育に焦点を当て、2030アジェンダを主流化することが重要。一義的な責任を有する政府と、民間セクター、ユース、市民社会とが、互惠的なパートナーシップを構築しなければならない。

### 「SDGサミット政治宣言」概要

- (1) SDGs達成に向けたコミットメントの確認
- (2) 現状分析(極度の貧困、子どもの死亡率、電気・水へのアクセス等で進展。他方、飢餓、ジェンダー、格差、生物多様性、環境破壊、海洋プラスチックごみ、気候変動、災害リスクへの対応に遅れ。)
- (3) アクションの加速化(資金、実施体制、地域の取組、強靱性構築、STI、統計等)





## SDGs実施指針改定版（概要）（1）

### 1. 序文

#### (1) 2030アジェンダの意義

- ・2030アジェンダ及びSDGsは、国際社会全体の普遍的な目標。

#### (2) SDGs実施指針改定の意義

- ・実施指針は、国内外においてSDGsを達成するための**中長期的な国家戦略**。
- ・SDGs採択から4年、実施指針決定から3年が経過。
- ・最新の動向を踏まえ取組の方向性を示すため、実施指針を改定。



出典：首相官邸HP (<https://www.kantei.go.jp/>)

### 2. 現状の分析

#### (1) これまでの取組

- ・**SDGs推進本部**（2016年5月）、**実施指針**（同年12月）、2017年12月から**アクションプラン**を定期的に策定。
- ・人間の安全保障に基づき、①Society5.0の推進、②地方創生、③次世代・女性を柱とする**日本の「SDGsモデル」**を推進。
- ・「**ジャパンSDGsアワード**」（2017年12月～）や「**SDGs未来都市**」（2018年6月～）、「**次世代のSDGs推進プラットフォーム**」（2018年12月～）等を通じて活動の「見える化」及び後押しに努めた。
- ・国際場裏においても、国連やG7・G20等、様々な機会に日本の取組を世界に発信。

#### (2) 現状の評価

- ・世界規模でSDGs達成に向けた取組が進展する一方、SDGサミット（2019年9月）において国連は**危機感**を表明。
- ・日本は、SDG4（教育）及びSDG9（イノベーション）の達成度が評価される一方、SDG5（ジェンダー）等について課題があるとの評価も見られる。
- ・今後、政府として、SDGsの各目標の進捗状況を把握、評価し、政策に反映する仕組みづくりに取り組んでいく。



## SDGs実施指針改定版（概要）（2）

### 3. ビジョンと優先課題

#### (1) ビジョン

- ・日本の持続可能性は世界の持続可能性と密接不可分であることを前提とし、**国内実施、国際協力の両面において、誰一人取り残されることのない持続可能な世界に変革することを目指す。**
- ・SDGsは**経済・社会・環境の三側面**を含むものであり、これらの相互関連性を意識して取組を推進。

#### (2) 8つの優先課題とSDGsアクションプラン

##### (People 人間)

- 1 あらゆる人々が活躍する社会の実現  
・ジェンダー平等の実現

##### (Prosperity 繁栄)

- 2 健康・長寿の達成
- 3 成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション
- 4 持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備

##### (Planet 地球)

- 5 省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会
- 6 生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

##### (Peace 平和)

- 7 平和と安全・安心社会の実現

##### (Partnership パートナーシップ)

- 8 SDGs実施推進の体制と手段

### 4. 実施のための主要原則

- (1) 普遍性 (2) 包摂性 (3) 参画型 (4) 統合性 (5) 透明性と説明責任、の**5原則**を重視。

### 5. 今後の推進体制

#### (1) SDGsの主流化

- ・ステークホルダーは、計画や戦略、個別の施策の策定や実施に際し、SDGsの要素を最大限反映。
- ・政府は引き続き関連する制度改革や適切な財源確保、広報・啓発活動の強化に努める。

#### (2) 政府の体制

- ・**SDGs推進の司令塔としての推進本部の機能強化。**SDGs推進本部幹事会、円卓会議等関連会合の積極的活用。実施指針の取組状況確認、アクションプラン策定、グローバル指標に関するデータ収集と分析、国際的議論への貢献、国内における広報啓発活動等実施体制の更なる整備に努める。
- ・幅広いステークホルダーとの意見交換や連携を推進。**円卓会議・ステークホルダー会議等の体制強化を検討。**



## SDGs実施指針改定版（概要）（3）

### 5. 今後の推進体制

#### (3) 主なステークホルダーの役割

##### ビジネス

持続的な企業成長，ESG投資，中小企業，ビジネスと人権 等

##### ファイナンス

公的資金と民間資金の有効な活用・動員，ESG金融，TCFD 等

##### 市民社会

「誰一人取り残されない」社会の実現に向け，政府との橋渡し役として，国内外への発信，政策提言 等

##### 消費者

消費者や市民の主体的取組を推進

##### 新しい公共

地域の課題解決に向け，地域住民やNPO等がSDGsに貢献

##### 労働組合

社会対話の担い手としてディーセント・ワークの実現や持続可能な経済社会の構築に貢献

##### 次世代

持続可能な社会の創り手として幅広い分野について提言・発信

##### 教育機関

地域や世界の諸課題の課題解決を図る人材育成，ESD推進 等

##### 研究機関

研究や科学技術イノベーションのSDGs達成に果たす役割を認識し，科学的根拠に基づき取組推進

##### 地方自治体

SDGs達成に向けた取組加速化，各地域の多様な優良事例の発信

##### 議会

国民の声を拾い上げ国や地方自治体の政策に反映，社会課題解決のための具体的な政策オプションの提案



#### (4) 広報・啓発

- ・ **広報・啓発活動の更なる強化**を通じて，認知度向上と行動の促進，拡大，加速化。
- ・ 2020年の京都 kongress，東京栄養サミット2020，東京オリンピック・パラリンピック競技大会，2025年の日本国際博覧会等の機会を活用し，日本の「SDGsモデル」を発信。
- ・ SDGsの裾野を拡大するため，文化や芸術といった新たな分野とも連携。
- ・ 関連情報を集約するハブとして“Japan SDGs Action Platform”の更なる活用。

### 6. フォローアップ・レビュー

- ・ 推進本部，幹事会，円卓会議において取組の進捗を定期的に確認・見直し。
- ・ グローバル指標を活用し進捗結果を国内外に適切な形で公表。
- ・ 国連ハイレベル政治フォーラム（HLPF）を通じたフォローアップ・レビューに貢献。
- ・ 実施指針は，SDGサミットのサイクルに合わせ，少なくとも4年ごとに見直し。

## 1. SDGsとビジネス③ ～市場規模試算～

### ● SDGsの各目標に関連する市場規模を試算

<SDGsの各目標の市場規模試算結果(2017年)>



# 出典：環境省「すべての企業が持続的に発展するために」

## < SDGs の活用によって期待できる 4 つのポイント >

### ポイント 1 企業イメージの向上

SDGs への取組をアピールすることで、多くの人に「この会社は信用できる」、「この会社で働いてみたい」という印象を与え、より**多様性に富んだ人材確保**にもつながるなど、企業にとってプラスの効果をもたらします。

### ポイント 2 社会の課題への対応

SDGs には社会が抱えている様々な課題が網羅されていて、今の社会が必要としていることが詰まっています。これらの課題への対応は、**経営リスクの回避**とともに、**社会への貢献**や**地域での信頼獲得**にもつながります。

### ポイント 3 生存戦略になる

取引先のニーズの変化や新興国の台頭など、企業の生存競争はますます激しくなっています。今後は、SDGs への対応がビジネスにおける**取引条件**になる可能性もあり、**持続可能な経営を行う戦略**として活用できます。

### ポイント 4 新たな事業機会の創出

取組をきっかけに、地域との連携、新しい取引先や事業パートナーの獲得、新たな事業の創出など、今までになかった**イノベーション**や**パートナーシップ**を生むことにつながります。

## <SDGs との紐付け早見表>

分野	取組内容	取組の対象となるキーワード	SDGs
エネルギー	使用量削減	省エネ 節電	7, 13
	エネルギー転換	燃料電池 天然ガス 再生可能エネルギー	7, 13
資源	使用量削減	節約 コピー用紙 電子媒体利用 工程転換	12
	利活用	再生利用 バイオマス 未利用資源(間伐材など)	12, 15
廃棄物	発生量削減	一般廃棄物 産業廃棄物 長寿命製品	12
	3R リデュース・リユース・リサイクル	リターナブル容器 修理 再利用	12
大気	温室効果ガス 排出量削減	CO <sub>2</sub> , フロン カーボン・オフセット モーダルシフト エコドライブ	11, 13
	大気汚染物質 排出量削減	ばい煙 (NOx, Sox) VOC モーダルシフト エコドライブ	3, 11
水	使用量削減	水道使用量 節水 循環利用 中水利用 雨水利用	6, 14
	排水管理	下水道排水 排水処理 水質汚濁防止	6, 14
生物多様性	調達	原材料調達 認証制度 (FSC, MSC, ASC, CoC)	14, 15
	事業所・社有地 での生物多様性	緑化 植林 ビオトープ 社有林の保全・活用	15
	環境教育	社員教育 教材 教育支援 啓発	4, 15
	原材料	再生原材料 認証原材料 グリーン購入 オーガニック フェアトレード	12, 13, 17
製品・サービス	開発	低燃費 長寿命化 節電 環境ラベル 環境配慮設計	7, 8, 12, 13
	製造工程	製品アセスメント 省エネ 環境負荷低減	7, 8, 12, 13
	流通	CO <sub>2</sub> 削減 簡易包装	7, 12, 13
雇用	条件	高齢者雇用 障害者雇用 人権 出産 育児 介護	3, 5, 8, 10
	環境	ワーク・ライフ・バランス 研修制度 福利厚生 働き方改革	3, 8
社会・地域	貢献	地産地消 防災 防災 寄付 環境教育 途上国支援	4, 11, 12, 16, 17
	配慮	景観 騒音 振動 悪臭 緑化	3, 11, 15

## 令和2年度 SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業について

別紙1

### 概要

- 中長期を見通した持続可能なまちづくりのため、地方創生に資する、地方自治体によるSDGsの達成に向けた取組を推進していくことが重要。
  - SDGs推進本部会合における安倍総理指示を踏まえ、地方創生分野における日本の「SDGsモデル」を構築していく。
  - 地方創生分野における日本の「SDGsモデル」の構築に向け、引き続き、自治体によるSDGsの達成に向けた優れた取組を提案する都市を「SDGs未来都市」として33都市を選定。また、特に先導的な取組を「自治体SDGsモデル事業」として10事業を選定する。
- ※平成30年度及び令和元年度において、「SDGs未来都市」として60都市を選定。「自治体SDGsモデル事業」として20事業を選定。
- 今後、これらの取組を支援するとともに、成功事例の普及展開等を行い、地方創生の深化につなげていく。

### SDGs未来都市

SDGsの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、**経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域**として選定

地方創生推進交付金の、申請事業数上限の枠外として、1事業追加可能

### 自治体SDGsモデル事業（10）

上限3千万円/都市	定額補助	上限2千万円
	定率補助（1/2）	上限1千万円

- ①経済・社会・環境の三側面の統合的取組による**相乗効果**の創出
- ②多様なステークホルダーとの**連携**
- ③**自律的好循環**の構築

SDGs未来都市の中で実施予定の先導的な取組として選定

地方公共団体によるSDGsの基本的・総合的取組の中でも特に注力的に実施する事業であり、**SDGsの理念に沿った統合的取組により、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い先導的な取組**であって、**多様なステークホルダーとの連携を通じ、地域における自律的好循環が見込める事業**

成功事例の普及展開

自治体SDGs推進関係省庁タスクフォースによる省庁横断的な支援（計画策定・事業実施等）

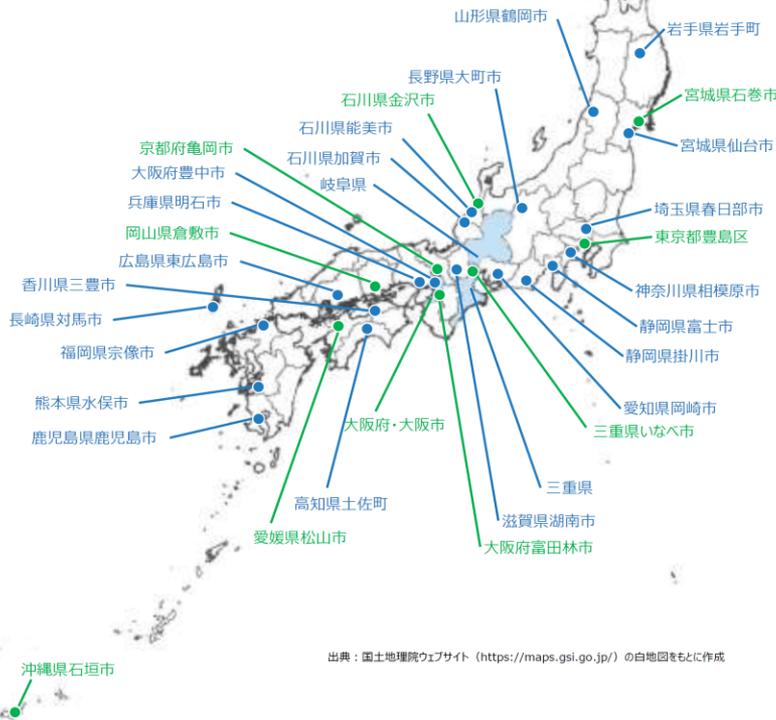
持続可能なまちづくり

# 出典：内閣府地方創生推進室「令和2年度「SDGs未来都市」等の選定について」

## 2020年度SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業選定都市一覧

別紙2

緑字：SDGs未来都市（自治体SDGsモデル事業含む）  
青字：SDGs未来都市  
※県が選定されている場合は県全域を着色。



出典：国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp/>) の白地図をもとに作成

	都市名	提案タイトル
自治体SDGsモデル事業含む	宮城県石巻市	最大の被災地から未来都市石巻を目指して ～グリーンローモビリティと「おたがいさま」で支え合う持続可能なまちづくり～
	東京都豊島区	消滅可能性都市からの脱却 ～持続して発展できる「国際アート・カルチャー都市」への挑戦～
	石川県金沢市	世界の交流拠点都市金沢の実現 ～市民と来街者が「しあわせ」を共創するまち～
	三重県いなべ市	グリーンクリエイティブいなべ ～グリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」から、カジュアルなSDGs推進を世界へ～
	京都府亀岡市	「かめおか霧の芸術祭」× X（かけるエクス） ～持続可能性を生み出すイノベーション～
	大阪府・大阪市	2025年大阪・関西万博をインパクトとした「SDGs先進都市」の実現に向けて
	大阪府富田林市	SDGsを共通言語としたマルチパートナーシップによる「富田林版「いのち輝く未来社会のデザイン」
	岡山県倉敷市	多様な人材が活躍し、自然と共存する「持続可能な流域暮らし」の創造 ～高梁川流域圏の発展は倉敷市の発展～
	愛媛県松山市	みんなを笑顔に「観光未来都市まつやま」 ～瀬戸内の 島・里・山をつなぐまち～
	沖縄県石垣市	自然と文化で創る未来 ～守り・築き・活かす島 石垣～
SDGs未来都市	岩手県岩手町	トリアルポルトムラインによる町の持続可能性向上モデルの構築・実証 ～SDGs 姉妹都市×リノグラホ～
	宮城県仙台市	「防災環境都市・仙台」の推進
	山形県鶴岡市	森・食・農の文化と先端生命科学が共生する「いのち輝く、創造と伝統のまち 鶴岡」
	埼玉県春日部市	春日部 2世、3世その先へ住みつくまち ～未来へ発信する世代循環プロジェクト～
	神奈川県相模原市	都市と自然 人と人 共にささえあい生きる さがみはらSDGs構想
	石川県加賀市	官民協働のスマートシティによる持続可能なまち
	石川県能美市	能美市SDGs未来都市 暮らしやすさ日本一実感できるまちへ
	長野県大町市	SDGs 共創パートナーシップにより育む「水が生まれる信濃おまち」サステナブル・タウン構想
	岐阜県	SDGsを原動力とした持続可能な「清流の国ぎふ」の実現
	静岡県富士市	富士山とともに 輝く未来を拓くまち ぶじ
	静岡県掛川市	市民協働によるサステナブルなまちづくり
	愛知県岡崎市	「みなも」きらめく 公民連携サスティナブル城下町 OKAZAKI ～乙川リバーフロントエリア～
	三重県	若者と創るみえの未来 ～持続可能な社会の構築～
	滋賀県湖南市	さりげない支えあいのまちづくり こなんSDGs未来都市の実現【シユットヘルク構想】
	大阪府豊中市	とよなかSDGs未来都市 ～明日がもっと楽しみなまち～
	兵庫県明石市	SDGs未来安心都市・明石 ～いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで～
	広島県東広島市	SDGs未来都市東広島 未来に挑戦する自然豊かな国際学術研究都市
	香川県三豊市	せとうちの海と山とまち ～ひろく豊かな田園都市・多極分散ネットワーク型みよ形成事業～
	高知県土佐町	持続可能な水源のまち土佐町 ～人々の豊かな営みが「世界」を潤す水を育む～
	福岡県宗像市	「世界遺産の海」とともに生きるSDGs未来都市 むなかつ
長崎県対馬市	自立と循環の宝の島 ～サーキュラーエコノミーアイランド対馬～	
熊本県水俣市	みんなが幸せを感じ、笑顔あふれる元気なまちづくり	
鹿児島県鹿児島市	「活火山・桜島」と共生し発展する持続可能なSDGs未来都市・鹿児島市	

# 出典：内閣府地方創生推進室「令和2年度「SDGs未来都市」等の選定について」

## 2020年度自治体SDGsモデル事業提案概要





# 出典：内閣府地方創生推進室「令和2年度「SDGs未来都市」等の選定について」

## SDGs未来都市一覧

2018年選定(全29都市) ※都道府県・市区町村コード順				2019年選定(全31都市) ※都道府県・市区町村コード順				2020年選定(全33都市) ※都道府県・市区町村コード順			
都道府県	選定都市名	都道府県	選定都市名	都道府県	選定都市名	都道府県	選定都市名	都道府県	選定都市名	都道府県	選定都市名
北海道	★北海道	静岡県	静岡市	岩手県	陸前高田市	滋賀県	★滋賀県	岩手県	岩手町	滋賀県	湖南市
	札幌市		浜松市	福島県	郡山市	京都府	舞鶴市	宮城県	仙台市	京都府	亀岡市
	二七町	愛知県	豊田市	栃木県	宇都宮市	奈良県	生駒市	山形県	鶴岡市	大阪府	★大阪府・大阪市
	下川町	三重県	志摩市	群馬県	みなかみ町		三郷町				豊中市
宮城県	東松島市	大阪府	堺市	埼玉県	さいたま市		広陵町	埼玉県	春日部市		高田林市
秋田県	仙北市	奈良県	十津川村	東京都	日野市	和歌山県	和歌山市	東京都	豊島区	兵庫県	明石市
山形県	飯豊町	岡山県	岡山市	神奈川県	川崎市	鳥取県	智頭町	神奈川県	相模原市	岡山県	倉敷市
茨城県	つくば市		真庭市		新潟県		小田原市		日南町	神奈川県	金沢市
神奈川県	★神奈川県	広島県	★広島県	富山県	見附市	岡山県	西栗倉村	石川県	加賀市	香川県	三豊市
	横浜市	山口県	宇部市	富山県	★富山県	福岡県	大牟田市			能美市	愛媛県
	鎌倉市	徳島県	上勝町	南砺市	石川県	小松市	熊本県	福津市	長野県	大町市	高知県
富山県	富山市	福岡県	北九州市	福井県	鯖江市	熊本県	熊本市	岐阜県	★岐阜県	福岡県	宗像市
石川県	珠洲市	長崎県	壱岐市	愛知県	★愛知県	鹿児島県	大崎町	静岡県	富士市	長崎県	対馬市
	白山市	熊本県	小国町							福岡県	熊本市
長野県	★長野県					愛知県	名古屋市長古屋市	沖縄県	恩納村	愛知県	岡崎市
					豊橋市			三重県	★三重県	沖縄県	石垣市
									いなほ市		

※黄色網掛けは「自治体SDGsモデル事業」選定自治体  
 ※★はSDGs未来都市のうち都道府県

# P・ドラッカー「未来について」

変化への抵抗の底にあるものは無知である。未知への不安である。

しかし変化は機会と見なすべきものである。

変化を機会として捉えたとき、初めて不安は消える。

<ご留意いただきたい点>

○当資料は、情報提供を目的として、前田マネジメント が作成したものです。

○当資料の内容、データ・分析等は作成者が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

○当資料の内容は作成基準日2020年9月1日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

○また、三井住友銀行が内容等を保証し、責任を負うことはありません。